



●早朝の流しでスルメの4点掛け



▲幹事の森白俊幸さんが良型スルメを上げて満面の笑顔を上げて満面の笑顔



●清藤さんが1投目からスルメを多点掛けでキャッチ



●ベテランはしっかりとシャクってツノを躍らせイカを誘う

今回の釣り仲間

●取材でお邪魔させていただいたのは、埼玉県朝霞市の森白俊幸さんが幹事を務めるグループ。釣り物はヤリイカ&スルメです。



●仲間や家族と沖釣りホリデー!

Charter boat fishing with friends and family

貸し切り船ナビ

任立専門

●撮影・文/古河好夫



▲釣りは洲ノ崎沖や城ヶ島沖の水深150~200メートル前後



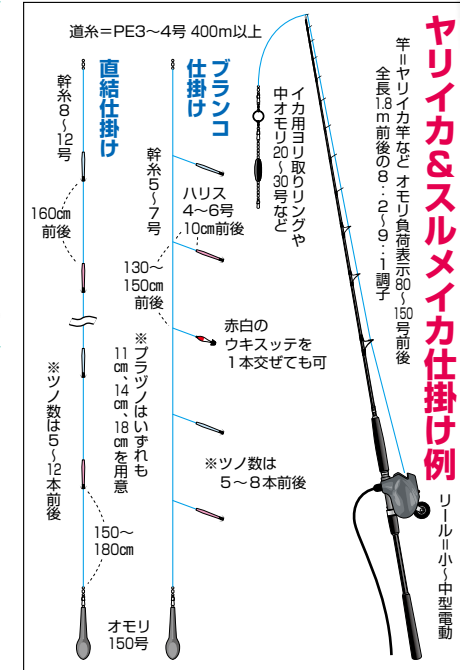
▲ブランコ、直結仕掛けはお好みで。ブランコは11、14、18センチ各種ありと安心。オモリ150号を使用

春はヤリイカ&スルメ 生きイワシエサの泳がせ釣りも狙い目!
丸伊丸の鈴木純一船長が仕立船を始めたのは30年以上前のこと。現在は息子の孝幸船長とともに常に2隻で釣り人を楽しませている。
孝幸船長も船歴20年以上のベテランで、釣りの予約がないときは漁に出るといふ。
孝幸船長に春のおすすめメニューを伺うと、「ヤリイカ&スルメイカ、エサ

のイワシが入荷するようにしたので泳がせ釣りで狙うヒラメ&ハタも人気を集め、亀城根や城ヶ島沖の水深10~70メートルを狙う。いずれもサイズは1~2キロ級が主体でハタ類はマハタのほかオオモンハタやアカハタ、ホウキハタ、キジハタが上がるという。どのハタも食味がよく釣り人に喜ばれているそう。
もうしばらくはアマダイも狙い目で亀城根周辺や鎌倉沖などの水深65~110メートルを探る。平均サイズは30センチ前後で日によっては45センチオーバーの大型も顔を見せる。

同船では生きイワシの泳がせ釣りで狙うヒラメ&ハタも人気を集め、亀城根や城ヶ島沖の水深10~70メートルを狙う。いずれもサイズは1~2キロ級が主体でハタ類はマハタのほかオオモンハタやアカハタ、ホウキハタ、キジハタが上がるという。どのハタも食味がよく釣り人に喜ばれているそう。
もうしばらくはアマダイも狙い目で亀城根周辺や鎌倉沖などの水深65~110メートルを探る。平均サイズは30センチ前後で日によっては45センチオーバーの大型も顔を見せる。

4月からは洲ノ崎沖の水深60~100メートルを狙う遠征五目もおもしろく、イサキやオキメバル、キントキなどが交じりクラーの中はにぎやかになるそう。そのほか潮が濁れば長井、城ヶ島沖の水深20~60メートルを狙うマルイカへも出船する。孝幸船長は大の釣り好きでエ



ヤリイカ&スルメイカ仕掛け例
竿はヤリイカ竿などオモリ負荷表示80~150号前後 全長18m前後の8.2~9.1調子
イカ用ヨリ取りリッパや中オモリ20~30号など
直結仕掛け 幹系5~7号
仕掛け ハリス4~6号 10cm前後
赤白のウキスッテを1本本交しても可
※ツノ数は5~8本前後
※ブランコは11、14、18cmを用意
※ツノ数は5~12本前後
オモリ150号

サ釣り全般のほか、ルアーにも精通。船長がルアー釣りに造詣が深いとあって同船はルアーファンのリピーターも多く、最大58キロのキハダも上げています。今年3月中旬よりルアーキハダ、ルアーシイラの予約を開始するそうなので、同船ホームページの予約表をぜひチェック



「イカ釣りはホントおもしろいです!」 by 清藤博智さん

早朝のチャンスタイム以外は乗り流した当日。それでも直結仕掛けで着々と数をのばし、船上干しを作っていたのが清藤博智さん(東京都新宿区)。「私は年中スルメとヤリイカ釣りしかやりません。乗合船の釣行は毎週です。イカはホントおもしろくて、もう中毒ですね(笑)。最近も乗合船では150杯の釣果を出せたので今日も期待していたんですが、厳しかったですね。しかし今年最初の群れが早く入ってきた感じがします。この後の二陣、三陣に期待したいですね」
休むことなく誘いを繰り返し、きっちりといかを乗せる姿はお見事! それにしても1人で150杯はスゴすぎです。

鈴木孝幸船長に聞きました!
ヤリイカ&スルメのコツ
「まず、合図が出たらすぐに仕掛けを投入するようにしてください。ここでモタモタするとイカの群れが船下を通過してしまい釣れる確率下がってしまいます。誘いは、ブランコ仕掛けも直結仕掛けもできるだけ竿を大きくシャクって誘うようにするのがコツです。150~200メートルの水深で小さく誘ってもツノは動きません。数をのばすコツはやっぱり追い乗しさせることです。最初の1杯が乗ったらゆっくりリールを巻いて追い乗りを狙ってみてください。それと直結仕掛けで釣る場合は、取り込むときに仕掛けを絶対に緩めないようにしてください。緩めると乗っていたイカがすべてバレてしまいます」



TARGET

ヤリイカ & スルメイカ

【第21回】

三浦半島長井荒崎港

丸伊丸

三浦半島長井荒崎港の丸伊丸は常時2隻体制で対応。穏和な人柄の親子船長が相模湾の様ざまなターゲットを存分に楽しませてくれる。エサ釣りはもちろんルアーも得意とする船宿だ。

●三浦半島長井荒崎港

丸伊丸

MARUIMARU
●Nagai-Arasaki Port, Miura Peninsula
☎046-856-4606 (詳細は巻末の情報欄参照)



▲1号船は最大21名までで12名までが釣りやすいと孝幸船長
▲2号船は最大12名までで8名までが釣りやすい

料金プラン

●平日の近場の釣り物は3名まで3万6000円～。沖の釣り物は4名まで4万4000円～。土日祝日は1号船(8.5トン、最大21名)が6名まで6万円、2号船(4.9トン、最大12名)が5名まで5万円、ともに1名増し1万円(釣り物によって料金の変動あり)。なおルアーキハダやシイラの料金については同船宿のホームページ参照。リレー釣りが可。沖揚がり後に乗船場で精算。



- 利用ガイド**
- 【予約方法】** 電話にて人数、希望の釣り物などを伝えて日程を確認
 - 【出船時間】** 日の出より出船可能。沖揚がりまで最大7時間
 - 【エサ、氷、仕掛けなど】** いずれもすべて別料金になるが、事前に伝えておけば用意してくれる
 - 【レンタルタックル】** 電動リールのセットとルアー用は2000円、手巻きリールのセットは500円～
 - 【集合場所】** 乗船場に集合。車は隣接する駐車場に停める
 - 【備考】** 船宿ホームページアドレス=<https://maruimaru.net/> ホームページからLINE オフィシャルサイトにアクセスして予約も可能



《釣り物カレンダー》

釣り物	シーズン(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ライトワケ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
ヤリイカ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
オニカサゴ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アマダイ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
メバル	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
マダイ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
マルイカ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アジ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
キハダ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
シイラ・カツオ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
カワハギ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
アオリイカ	アジ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚



丸伊丸のココが好き!

幹事の森迫俊幸さんに聞きました!

釣り物が多彩! 船長が優しくて仲間を連れてきやすい船宿です。

「丸伊丸は6年ほど前から利用していて2カ月に1回のペースで乗船しています。大船長、若船長ともに優しい人柄で仲間を連れてきやすいです。釣り物が多彩なのも魅力で、今日はイカでしたが、この時期はオニカサゴや泳がせ釣りでヒラメやハタを狙うのも楽しいですね。帰りがけに、おかみさんが手渡してくれる野菜やワカメなどのお土産もうれいです。今日はスルメの船上干しで一杯やるのが楽しみです」

当日は7名で乗船し、一人あたりの料金は1万円。ご協力ありがとうございました。

してほしい。純一船長、孝幸船長ともに明るく穏やかな人柄で実に親切。レンタルタックルも充実しているの家族や仲間を誘って出かけてみてはいかがだろうか。

洲ノ崎沖のヤリイカ&スルメ朝イチに多点掛け連発

丸伊丸を訪れたのは2月23日のこと。埼玉県朝霞市の森迫俊幸さんが幹事を務めるグループがヤリイカ&スルメで仕立てた船にお邪魔させていただいた。当日は6時に出船。孝幸船長に釣り場をたずねると、ここに

きて模様様がグンとよくなった洲ノ崎沖へ直行すること。約1時間ほど走って釣り場に到着。水深180メートル前後で開始となった。

1投目からイカが乗り早々に巻き上げに入る人が数名。ミヨシの清藤博智さんら2名は直結仕掛けでスルメの多点掛けを披露。ヤリイカも顔を見せた。2投目も同様にイカはよく乗り5点掛けで取り込む人も。

ブランコ仕掛けで釣っていた山口美佳さんと小沢由紀子さんは最初のうちはサバに邪魔されたが、何度か流し変えたのち、

立て続けにスルメを上げてニッコリ。今日はスゴイことになるんじゃないかと思えた。ところが1時間もしないうちに乗りが渋くなり、たまに単発で上がる程度になってしまった。

このころになると洲ノ崎沖にはイカ船の大きな船団ができていたが、どの船も芳しくない様子。「反応は出るんですけど、何を嫌っているのか乗ってくれないんですよ」と言ってる船長は顔を曇らせる。

そんな状況下でも数をのばしたのは前出の清藤さん。単発ながら釣り上げては移動の合間に船上干し作りに精を出す。

中盤戦に入ると洲ノ崎沖は潮がすさまじく速くなってしまい釣りにならないということで、後半戦は城ヶ島沖へ移動することに。

釣り場に到着して再開すると、たまに乗るのだが、ことごとく巻き上げ中にバレしてしまう。「たぶんヤリイカでしょう。竿が硬いスルメ用のせいかバレちゃいますね」と清藤さん。

結局城ヶ島沖は不発に終わり沖揚がりの時間を迎えた。当日のトップは清藤さんで22杯の釣果。洲ノ崎沖、城ヶ島沖のイカはまだまだ盛り上がるはず。今後に期待したい。